

- 大学生の「学力」について考える
- ICTと高等教育
- 遠隔講義システムの「K<sup>3</sup>茶論」開催中!
- 「シンボルマーク」を募集します!
- 加盟大学の紹介
- 運営会議が開催されました
- 会員募集のお知らせ
- 編集後記

The Consortium of Higher Education in Shinshu



※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」は Shinshu・Self-Study・Share・Scale・Social を表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

高等教育コンソーシアム信州事務局 〒390-8621 長野県松本市東区 3-1-1 信州大学学務課内 電話：0263-37-2427 FAX：0263-36-3044 URL：http://www.c-snet.jp/ MAIL：office@c-snet.jp

## 大学生の「学力」について考える



高等教育コンソーシアム信州  
推進チーム会議リーダー  
小坂 共榮  
(信州大学 理事)

かつて1999～2001年にかけて、『点数ができない大学生』、『小点数ができない大学生』、『算数ができない大学生』と題した本がシリーズで出版され(東洋経済新報社刊)、話題になりました。大学生の学力低下が社会的に大きく取り上げられるようになったのは、この頃からでしょうか。その原因に関しては、さまざまな議論があり、何をもって正しいとすべきかはよく分からないともいえます。しかし、大学に籍を置く教員たちの多くは、原因にゆっくりと思索を巡らす暇もないほどに、「できない(といわれる)学生」たちの教育に頭を悩ませる日々であることは間違いないでしょう。原因はさておいても、大学にとって、一度入学させた学生たちを一人前にして社会に送り出す責任の重さは、今も昔も変わらないのです。

昔に比べると、大学に入る時点で「大学に入ったら、こんなことやあんなことを、色々やってみよう」という積極的な学生たちが減り、それこそ算数やその他の基礎学力が不十分であったり、教師にきついことを言われるとすぐへなへなとなる学生たちが増えていることは確かです。人間は、子供時代から培った「学力」を駆使することによって、初めて新しいことを学ぶことができ、さらにそれを乗り越えて新しいものの発見につながれるのです。しかし最近では、大学入学時点での学力が、新しいことへ挑戦しようというレベルに達していない学生が増えてきています。大学全入時代といわれる今日の大学は、入学前までに培われた学生の学力レベルを正確に把握し、不足している部分については個々のレベルに応じた教育メニューをきめ細かく用意してやらなければならない時代だということ認識しなければなりません。高等教育コンソーシアム信州は、そのための仕組みを長野県内8大学が共同で作ら上げようとするところに大きな意義があるのです。

## ICTと高等教育



高等教育コンソーシアム信州  
ICT部会リーダー  
矢部 正之  
(信州大学 全学教育機構長)

ICT部会リーダーを仰せつかっております信州大学の矢部です。ICTという言葉自体がまだ一般的ではないかもしれませんが、最初にご説明いたします。これは、「Information and Communication Technology」の頭文字をとったもので、「情報通信技術」と訳されています。以前はITという言葉もありましたが、「通信」の重要性が増したこともあり、最近ではICTと呼ばれています。ICT部会の使命は、コンソーシアムにおける、単位互換や大学間の多方面にわたる交流を活発にするために導入した遠隔講義システムと遠隔会議システムの安定運用が第一になります。これは、広い長野県でコンソーシアムの目的を達するために不可欠のシステムであり、すでに多くの機会でご紹介されて参りました。さて、高等教育におけるICT活用とは、上記のような遠隔利用だけでしょうか?確かにICTは、「いつでも」「どこでも」「だれでも」といわれるように、時間、空間の制約を越え、さらに教育の対象をも拡大する効果を持っています。これに加えて、教育、特にユニバーサル化された高等教育の現場で、

大きな効果を上げることが期待されています。このことについては、第1回「K<sup>3</sup>茶論(K・スリー・サロン)」でもその一端をお話しましたが(※1)、ICTを活用した自習時間の確保等による単位制度の実質化を始めとする教育の質保証、さらに学生の修学支援をより個別にきめ細かく実施するためにICTが威力を発揮することが指摘され、実践されています(※2)。ICT部会では、まずは遠隔講義・会議システムの安定運用を図り、加えて、コンソーシアムの目的である大学間連携による長野県内高等教育の質的向上、さらに、より広い対象へより充実した高等教育サービスを提供するために、ICTの教育活用の利点を最大限に活かせるような取組をして参りたいと存じます。システムの運用や、高等教育へのICT活用について、ご意見、ご提案、ご質問等何なりと部会員にお伝えください。それらを元に、コンソーシアムがより効果的に機能するよう全力を尽くす所存ですので、今後とも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。※1「K<sup>3</sup>茶論」HP <http://www.c-snet.jp/k3/> ※2信州大学全学教育機構HP <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/general/special/kien/kien.html>

## 遠隔講義システムの「K<sup>3</sup>茶論」開催中!

高等教育コンソーシアム信州事務局では、加盟大学間の交流を目的とした「K<sup>3</sup>茶論(K・スリー・サロン)」を定期的で開催しています。これは、毎回異なる講師の方をお招きし、遠隔講義システムを活用して、自由なテーマのもと参加者同士で楽しくトークをする、という気軽なスタイルの「茶論(サロン)」です。聴講者としてはもちろん、講師としても、どなたでも無料でご参加いただくことができます。ぜひ一度足をお運びください。 ※「K<sup>3</sup>」とは「高等教育交流(Koutou Kyouiku Kouryu)」の略称です。 ※「K<sup>3</sup>茶論」HPはこちら⇒<http://www.c-snet.jp/k3/>

### ■次回開催

第6回 9月10日(木)

「e-Learning教材をつくらう!」

講師 信州大学 e-Learning センター

時間 17:30～19:00(90分)

会場 「高等教育コンソーシアム信州」

加盟各大学遠隔講義システム講義室



### ■これまでに開催したテーマと講師

- 第1回 5/21(木) 「学生の学びとコンピュータ」 信州大学 矢部正之
- 第2回 6/18(木) 「学生たちと、歩いて歩いたフォッサマグナ」  
信州大学 小坂共榮
- 第3回 7/ 2(木) 「ICT活用教育と著作権」 放送大学 尾崎史郎
- 第4回 7/22(水) 「草の根長期海外留学推進:現場の取り組み」  
信州大学 桑井資行
- 第5回 7/30(木) 「モンゴル現代文学手稿のデジタル化による  
保存と復元の可能性について」  
清泉女学院大学 芝山 豊

※講師希望の方(大学教員、大学生、企業人等)も随時募集中です。ご希望の方は担当(森下)までご連絡ください。TEL：0263-37-2956(直通) MAIL：morisita@shinshu-u.ac.jp



## 「シンボルマーク」を募集します！

高等教育コンソーシアム信州では、本コンソーシアムの趣旨を表し、存在を広くアピールするため、新たにシンボルマークを募集します。決定したシンボルマークは、この「S-NET NEWSLETTER」を始めとする刊行物やホームページで使用します。

専用の応募用紙をホームページからダウンロードし、作品と一緒に郵送、またはメールでお送りいただくか、事務局へ持参してください(9月

30日(水)当日消印有効)。詳しくは高等教育コンソーシアム信州のホームページをご覧ください。多数のご応募をお待ちしています！

URL : <http://www.c-snet.jp/news/topics/post-3/>

MAIL : [office@c-snet.jp](mailto:office@c-snet.jp)

■**応募資格**:高等教育コンソーシアム信州加盟大学関係者(学生・教職員等)

■**選考・謝礼**:最優秀賞1点(図書カード3万円分)、佳作2点(同1万円分)

## 加盟大学の紹介

高等教育コンソーシアム信州に加盟する、長野県内の個性豊かな8つの高等教育機関(信州大学、長野県看護大学、佐久大学、諏訪東京理科大学、清泉女学院大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学)の中から、毎号2大学ずつ、特色ある活動や取組をご紹介します。

### 長野大学



〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1

TEL : 0268-39-0001 (代表)

URL : <http://www.nagano.ac.jp/>

長野大学企業情報学部・森俊也ゼミナールの学生は、企業イノベーションプロジェクトと題し、身近な業界・企業(流通、飲料、食品、化粧品等)の問題解決に取り組んでいます。昨年は、学生にとって身近で、かつ業界の環境変化が激しく、業界での立場も難しい「ビール業界・サッポロビール(株)」に焦点をあて、同社の主要課題を特定し、課題を解決する戦略や商品等について考えてきました。

学生と本社経営戦略部との連絡調整の末、平成20年11月に本社(東京都渋谷区恵比寿)に訪問し、それらを報告・提言する運びとなりました。この会合において学生達は、業界のリーダー企業の戦略は「顧客にしてほしい思い」を基にしているのに対して、同社の戦略は「品質・原材料の良さ(ビールの良さ)」を基にしていること、また同社は、継続的に新商品を出しながらもそれらが浸透していないこと、等の課題を指摘し、それら課題を解決する戦略「のどと生活にたまらない潤いを!」や、ジャンルごとの商品<麦潤(ビール)、豊(発泡酒)、恵(第3のビール)>を提案し、本社より一定の評価を頂くこととなりました。

このような問題解決活動は、学生が、顧客やライバル、従業員など様々な存在を考える「多面的視点」、様々な人と協力する「協調性、コミュニケーション能力」、矛盾なく説得的に相手に伝える「論理性、説得性」、社会や企業の動きに関心をもつ「課題発見姿勢」等の様々な視点・能力を磨く絶好の機会となっています。(文責:長野大学企業情報学部教授 森俊也)

### 松本大学



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1

TEL : 0263-48-7200 (代表)

URL : <http://www.matsumoto-u.ac.jp/>

松本大学は総合経営学部(総合経営・観光ホスピタリティ)と人間健康学部(健康栄養・スポーツ健康)の2学部4学科を設置し、経営、観光、栄養、スポーツとバラエティーに富んだ構成になっています。「地域貢献」を教育理念に据え、徹底した地域との連携による地域の教育力を生かした、学生の勉学意欲を醸成しながら展開する、教育が特色です。

例えば、地域社会にある様々な問題を学内に取り込み、問題解決に向けて学生と教員と地域住民が協働して活動を繰り広げる組織「地域づくり考房『ゆめ』」があります。毎年地域から200件を超える課題が持ち込まれますが、意欲的な取組に対しては「チャレンジ奨励制度」を設け大学から活動費を補助しています。中にはスリランカの地域振興に取り組むなど地域問題も広がりを見せています。また地域社会に埋もれた伝統的な農産物を掘り起こし、若い感性から新しい光をあて商品化に結びつけている活動や幼児のスポーツとの触れあいを目的としたスポーツスクールなど多種多様な活動が展開されています。

これらの活動を通じて、学生の社会人基礎力を養うとともに、地域貢献意識の涵養を図ることが狙いとなっていますが、併せて地域住民の本学への理解も高まっています。

松本大学は信州松本をフィールドとした地方にあって存在感のある特色ある大学づくりを目指しています。



## 運営会議が開催されました

6月29日(月)、諏訪東京理科大学(茅野市)において、第3回高等教育コンソーシアム信州運営会議が開催されました。内容は次のとおりです。

- 議題**
1. 平成20年度事業報告について
  2. 長野県内単位互換に関する協定書の一部改正について
  3. 遠隔講義システム活用授業における申合せ(案)について
  4. 平成23年度以降のコンソーシアムの活動等について
  5. その他

- 報告**
1. 「K<sup>3</sup>茶論」の開催について
  2. 推進チーム会議報告について
  3. 平成21年度「県内大学単位互換履修生」受入及び派遣状況一覧について

## 会員募集のお知らせ

高等教育コンソーシアム信州の活動や事業を支援する会員になりませんか？

本コンソーシアムでは、会員になっていただける団体、個人を募集しています。県内高等教育と地域の発展のため発足した高等教育コンソーシアム信州の活動に、ご協力をお願いいたします。

詳しいお申し込み方法については、高等教育コンソーシアム信州事務局までお問い合わせください。

### ■年会費

特別会員(長野県内の地方公共団体)、

賛助会員(団体・個人)とも、

1口1万円、1口以上



## 編集後記

昨年11月に「高等教育コンソーシアム信州」が発足し、この夏「S-NET NEWSLETTER」が創刊しました。高等教育コンソーシアム信州の活動を県内外の皆さまへお届けし、大学生には信州でのキャンパスライフがより充実するような情報を、中学生には将来の進路を決めるヒントになるようなニュースをお伝えしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。